

# 決算特別委員会の概要

決算特別委員会は、平成27年10月13日から10月16日の4日間の日程で開催し、平成26年度の決算審査を行い、認定しました。ここでは、決算特別委員会での主な質疑の内容を紹介いたします。

## 決算特別委員会（質疑の抜粋）

### 〔総務費〕

#### 交流定住促進事業

**Q** 空き家バンク物件の賃貸借新規契約について他都市からの定住は何件か。

**A** 空き家バンクの成立件数は、市内の成立が1

件、売買が1件、市外からの賃貸が8件で、計10件である。

**Q** 東京、大阪で定住フェア開催をしているが、その成果はどうか。

**A** 東京で2回、大阪で2回、本市への定住をP

Rしたが、1日に10組ぐ

らいが本市に相談があった。大阪では本市を絞

込んだの相談という状況ではなく、東京ではある程度町を絞り込んで相談

に来ており、相談内容も濃いと感じている。

**Q** 空き家バンク登録件数30件で、10件の成約というかなり高い成約率で、登録件数を増やせば定住獲得できる確率が上がる。定住促進という意味で登録件数が増えるような施策をお願いする。

空き家バンクの取り組み目標はあるのか。取り下げ件数が随分あるが、その理由は何か。

**A** 空き家バンクの登録件数は、本年9月現在で15件と昨年度の倍のペースとなっており、今後も登録件数が増える施策を検討していく。

取り組み目標としては、長期総合計画の中で

31年度までに成立件数20件と掲げている。

取り下げの原因については、家主が市と民間に同時に登録している場合があり、民間で契約が成立した場合に取り下げられた可能性がある。

**Q** 本事業については、民間の事業者との連携が大事と思うが、事業のやり方、仕組み作りについて問う。

**A** 本市では市内の宅建業会と協定を結び、市内の空き家情報を共有・連携している。また、県内の市町、司法書士、宅建業会等様々な業種の方が加入している県の交流定住促進協議会に加入しており、アドバイザー派遣制度を活用して定住交流の促進を図っていく。

### 〔教育費〕

**Q** 「カウンセリング・相談活動事業」について、いじめや不登校の児童生徒への支援の現状はどうか。

**A** 「心の教室相談員」を小学校22校中13校、中学校全校に配置、「教育相談指導員」を教育委員

会に1名配置し、早期発見、早期解決、再発防止に取り組んでいる。不登校への対応ではスクールカウンセラーを中学校9校と三原小学校に配置、併せて、家庭訪問支援員も活用し、早期復帰への支援を継続していく。

### 〔土木費〕

#### 市営住宅の管理について

**Q** 市営住宅へ保育施設や介護施設併設の検討及び老朽化した市営住宅の管理について聞く。

**A** 本市では、支援が必要な高齢者を対象としたシルバーハウジングを35戸設置しているが8戸空室である。問題点を検証

して事業の運営を推進していく。また、老朽化した市営住宅の管理については、必要に応じて順次解体を行うとともに草刈り等を実施し、安全確保に努めていく。

### 〔討論・採決〕

#### ・反対討論

天満市政は「住民福祉の向上」への転換が図られていない。大型事業のツケが市財政と市民生活を圧迫している。基金残高は過去最高の119億円を有し新庁舎など今後の大型事業につき込もうとしている。国保も多額の基金を持ち、市民の願いに応えていない。

#### ・賛成討論

一般会計及び全ての特別会計において実質収支が黒字であり、各財政指標の視点からも健全な財政状況が維持されている。また、市債残高も22億円減少していることから「元氣な三原」実現に財政改革と地域活性化が実現された。

※採決の結果は、14・15ページをご参照ください。



定住フェアの様子



シルバーハウジング